

柴倉沢

りは迫力のある岩壁で、雰囲気が変わってきた。更に進むとゴルジュ状となり、7m滝。これを右から登ると3m、4mと滝が続き、最後は10mの直瀑となっている。ここは登れない。ルートをさがしたがはっきりせず、10:00引き返すことにする。(1) (4)

[タイム] 柴倉沢出合(8:00)→廻行中止(10:00)→柴倉沢出合(11:00)

滝沢川源流左俣左沢

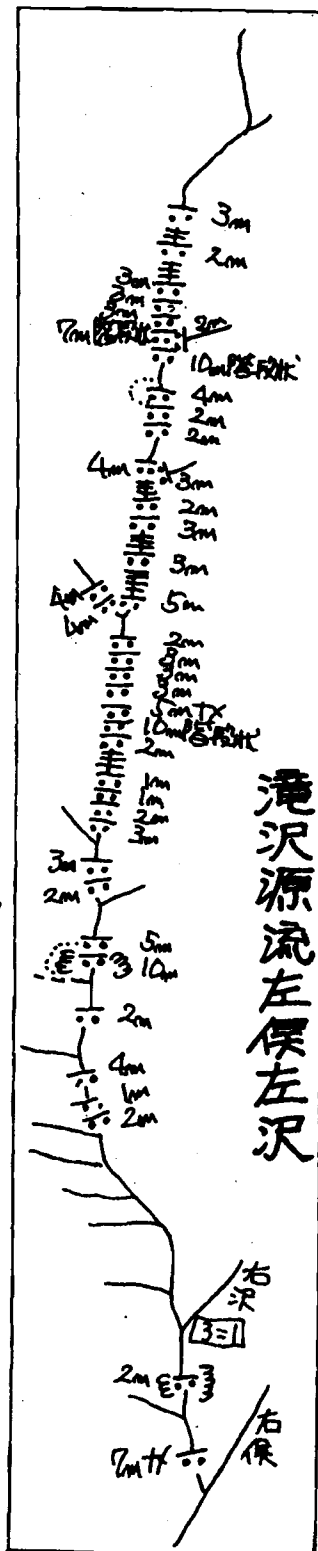
1990年8月25日

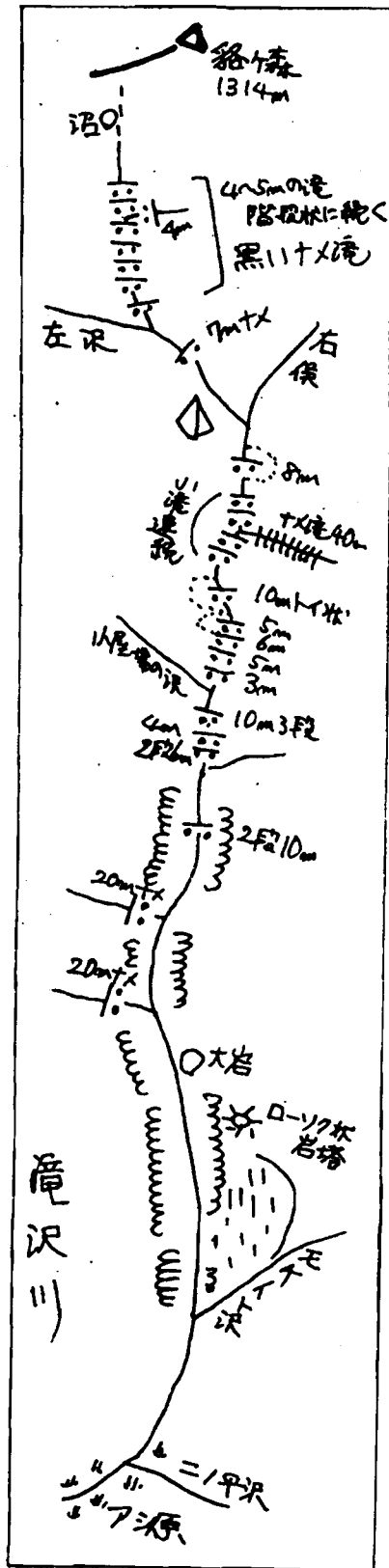
L

猪ヶ森山から滝沢川源流右俣左沢を二俣まで下降し、11:25いよいよ左俣左沢の廻行開始。すぐ7mのナメ滝をかける。左岸から釜をへつり、右岸に渡って直登する。幸先がよいと喜んでいたら、あとは平凡となってしまった。右沢出合を過ぎてもなお平凡である。これはハズレの沢だろうかと不安になってきたところで、ポツポツと小滝が出てきた。4mを筆頭に1~2mのものだが、スタンス多くすべて直登して先に進む。

やがて10mの滝となった。行く手を阻むようにしてそびえる岩壁から流れ落ちる水。水量が多ければ、爽快な感じを受ける滝である。樹林だけを頼りにして、強引に右岸を捲く。この滝のすぐ上部にも5mの滝がかかるが、ここはスタンス多く、何なく直登した。

やがて連瀑帯となる。最初は1~3mであるが、ま





もなく5m, 10mといった滝も混ざるようになる。最初の10mは、左岸を登り、中段をトラバースして右岸に移り、直登する。続く5mはブッシュを利用しながら右岸を直登する。2つめの10m滝は典型的な階段状。1段1段に1足1足をのせて直登する。落差の小さなものも含めて、すべての滝が直登できるのが楽しい。沢が右手にカーブすると突然傾斜がゆるやかとなってしまった。連瀑布は終了である。あとは細い流れが続いているだけ。それを最後までつめあげ、やぶをこいで雲何曾根の稜線に出る。

(記・)

[タイム] 遡行開始(11:25)→右沢出合(11:40)
→遡行終了(13:40)→稜線(13:55)

滝沢川左俣右沢

1990年7月13~15日

L!

7月13日 福島(20:15)⇒三条(23:00)

7月14日 三条(7:00)⇒会越街道記念碑駐車場(7:30)⇒滝沢川林道終点(9:00, 9:20)⇒モチイト沢出合(10:15)⇒ローソク岩(11:45)⇒小屋場の沢出合(13:15)⇒ワラビ平(16:00)

三条部落学校跡に泊まる。会越連絡林道本名：津川線の勢ヶ森北側の記念碑(県境)の駐車場に車を1台デポしてから、引き返して滝沢川に向かう。

滝沢川林道終点到車を止め、いよいよ滝沢川へ。二ノ平沢手前までは山道を進み、二ノ平沢出合の葦の原から川原に降りる。モチイト沢出合を過ぎると、側壁が現われるが、沢の中は川